

## 【PBLツアー：山陰山陽編】

夏休み企画「PBLツアー特集」の第六弾 最後の記事は、山陰山陽です。

生徒たちは、原子力発電について多角的な探究を行い、クリーンエネルギーと地域作りを学びました。

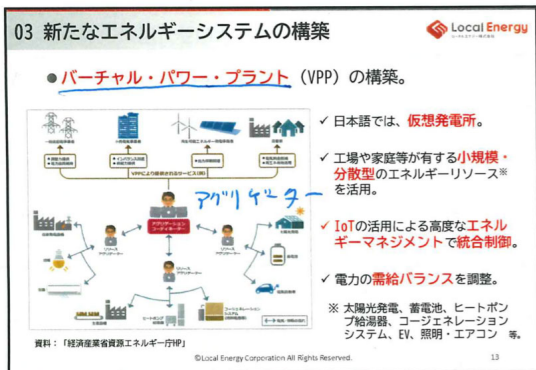
研修1日目は、真庭市を訪れ、地球にやさしいエネルギー源として期待されるバイオマスについて学習するために、重機を使って木材を粉砕するところや、燃料チップを燃やして発電するプラントを見学しました。生徒たちは、「木を燃やしても環境に優しいのはなぜだろう?」「バイオマスを活用することで市に貢献できるのはどうしてだろう?」といった疑問点を実際に施設を見学しながら質問することで、理解を深めることができました。



2日目は、松江市に移動し、原子力館や島根原発・エネルギー問題県民連絡会事務局、原子力安全対策課などを訪問し、原子力について多様な視点の方の意見を聞くことができました。市としての経済効果を見込み安全対策を行った上で誘致する中立派と、大きすぎる負の遺産を抱える原子力の危険性を訴える反対派の両方の話を聞いたことで、生徒たちは物事の表面だけを理解するのではなく、納得感を持って自分の意見を持つことができたことでしょう。



3日目は、米子市でソーラー発電施設を見学しました。エネルギーコーディネーターの講演にも参加し、「エネルギーの地産地消」「仮想発電所」などさまざまなキーワードを知ることができました。



4日目は、鳥取砂丘にある風力発電所を訪れ、全世界が注目をする鳥取大学の「砂漠化を食い止める研究」について学びました。



最終日は、奈良時代から続く温泉町を統合しつつ現在の町名となった「新温泉町」でフィールドワークを行いました。大きな財産である温泉を我が物にせず、町の人達みんなで分かち合うことで、そこに住む人々に恩恵をもたらしたことを学習することができました。



多様なエネルギーシステムに触れ、それぞれの利点と欠点を学んだ生徒たちが、日常生活に戻り、どのような研究に昇華させるのが楽しみです。